（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（No. 1 ）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

・日々 その子の伸びを認め合う（安心感）

・授業の中で学んだことを実感できる時間・場の確保

期待する子どもの姿

・～がわからなかった（もやもや感）

・わかった。なるほど。そうか（満足感）

・家でもう１回やってみたい

・友達みたいに次はわたしも

・自分でも

もっと難しいものをやってみたい

（次の活動への意欲）

・どんなところで使われているのか

生活の中でやってみたい 調べてみたい

・わかったけれど 何でそうなのかなあ

（新たな疑問（次の課題））

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　2　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

・つぶやきを大切にする。（安心して話える学級の雰囲気）　オープンエンドの授業形態
・少し難しいことにも挑戦すること
・自主学習をした子どもへの見とり・賞賛、学級へ広げる
・話をする時間を保障する。

期待する子どもの姿

・○○は分かった（できた）けれど□□は分かりませんでした（でき）
・この学習は○○が難しそうだ。（単元の導入で）
・○○さんのやり方が気に入った。よく分かった。　○○さんの解き方をマスターしたい
・「～のときはどうだろう」
・もっと時間がほしいです。練習したいです。
・できたから見てください。
・～な実験をしてみたいです。（理科）
・もっと調べてみたいです。（社会）

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　3　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

ふり返りの内容を、次時の導入に活かす
子どもとつくる授業
ペア・グループによる交流　自己有用感!!

期待する子どもの姿

「こんなこともできるんじゃない？」
学習したことを使って（深め広げる）

「もっと他にはないか探してみよう。」

「家からもやりたいと思います。」

「本当かどうかたしかめてみよう。」

「本や図かんで調べてみよう。」

「○○さんのように～したいです。」

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　4　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

教師主導ではなく、児童が主体となった授業
問題提示の工夫、魅力的な教材、教材研究
考える時間、話し合う時間の保障、学級経営（学びの土台づくり）

期待する子どもの姿

- やるたびに楽しくなりました。　）学ぶ楽しさを実感
- ○○さんみたいになりたい。
  ○○さんの考えを聞いて、考えが変わりました。　）他者との関わり
- 今日の学習、ポイント
  ○○が わかりました。
- 「ここまでは分かったけれど…　ここからは わからない。」
  自信がない。
  わからないことが いえる

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　5　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

期待する子どもの姿

- おもしろかった。楽しかった。
- また○○さんと一緒にやろうね。 学び合い
- はじめてわかった!! よくわかった。
- ○○○がわからなかったから、勉強したい。
- 家の人に教えてあげたい。
- もっと自学でもやろう。 広がる
- 今度は違う方法でやってみたい。
- こんな方法は？
- もっと知りたい。。やってみたい。 意欲

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　6　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

共通の意識として

そのために　いい授業づくり → いいふりかえり

・「できた！」という満足感達成感をしっかり感じられる学習課題の設定

・本当に学んだことが自分のものになったか、自分で確かめたいと思えるような言葉がけ

期待する子どもの姿

・「今日学習したことを宿題にも出してください。」

・「もっとむずかしい問題がしたいです。」

・教え合う姿（の）（わかりません、と友だちが言ったときに教え合う姿）

「練習してこよう。」とつぶやく姿。

・「自学で調べてまとめよう。」

・お家の人に見てもらおう。

・友だちの○○さんの考えがすごいと思った
　→この子がうれしい。

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　7　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

・授業力向上（学習の基盤づくり）
　・教材研究・系統性
　・学習構想
（土台づくり
学級経営
意欲を高める
聴く・伝え合う）

・学びの足跡をのこす　良き手本・見本の提示

期待する子どもの姿

・「今日の学習を生かしたら、～ができるかもしれない。」（発展的に考える発言）

・「前に学習した～と比べて～。」（既習を生かした発言）

・「もっと難しい問題を出して。」

・「（つまずきに気付き）これから自主学習で～したい。」

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　8　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために　関連づける力を育む

教師は、意識的に　つぶやいたり
コメントを書いたりする。

期待する子どもの姿

・友だちの考えを使って、解いてみたい。
・自学でもっと 調べてみたい。
・このきまりを 使えば いいんだ。
・きょうも やっぱり こうだった。
・つぎは、［　　］について やって
みたい。

(平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート)

(9)グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

- 多様な考え方を引き出す。
- 子どもの発想やつぶやきをほめる。
- ハードルを上げた課題
- 教員が楽しい

) いい問題に出合わせる。

期待する子どもの姿

- 友だちと同じ図だったから、こんどはちがう図を考えたい。
- ２つの考えがあると分かりました。次の問題でも使いたい。
- もっとむずかしい問題がしたい。
- ○○だと分かりやすいので、次に使いたい。
- もっとかいてみたい。
- 前で言えてうれしかったから、また言いたい。
- みんなのおかげで問題が解けた。
- 自学でやってみたい。

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（ 10 ）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために　まちがいや失敗から学べる子をつくる

前時の振り返りから本時のめあてをつくる。

うまくいかなかった　理由や
自分がわからなかった　原因がわかり
自分で解決の方法がわかる

期待する子どもの姿

- うまくいかなかった~~この原~~けど おもしろかったね。
- どうしてうまくいかなかったのだろう。
- ほかの場合はどうなるのかな。
- ほかの場合でもできるかな。
- できないと思ったけど、○○さんの考えを聞いてわかったよ。

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（　11　）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために
- 関わりのある学習場面を設ける。（あぁ～　おー、　なるほど　の声が出る学習）
- 考える価値のある問題
- ~~単元~~ 単元構成

期待する子どもの姿

○ 次は（or 自学で）～さんの方法でしてみたい。
（の時間）

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（ 12 ）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

・本時のめあて（学習課題）を具体的にする。
・課題設定の工夫

期待する子どもの姿

・つぶやき（わかった。よくできた。わかるようになりたい）がある。

・質問がある。

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（ 13 ）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために　授業の前と後で自分が進化した点を1つあげなさい。
次の授業の見通しを立てて終わり（次時につなげる。

期待する子どもの姿

○○できるようになりたい。
○○するのが楽しみです。
○○が分かった。できた！
○○はなかったけど、△△が分からない。
今日の授業面白かった。

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（ 14 ）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

発問の工夫　単元のねらいにせまるような

単元構成の工夫・明確化

思考を促す発問

期待する子どもの姿

◎単元のゴールを意識した発言

・「実験で確かめてみたい」

「本当にそうなの！」「しくみをくわしく知りたい」

・いつか行って自分の目で確かめてみたい

・もっとできるようになりたい

・実際にしゃべってみたい

・わかった．できてうれしい

・別の問題を作ってやってみる！

（平成２９年度　第１回学力向上研修ワークシート）

（ 15 ）グループ

次の学ぶ意欲につながる振り返りにするために

そのために

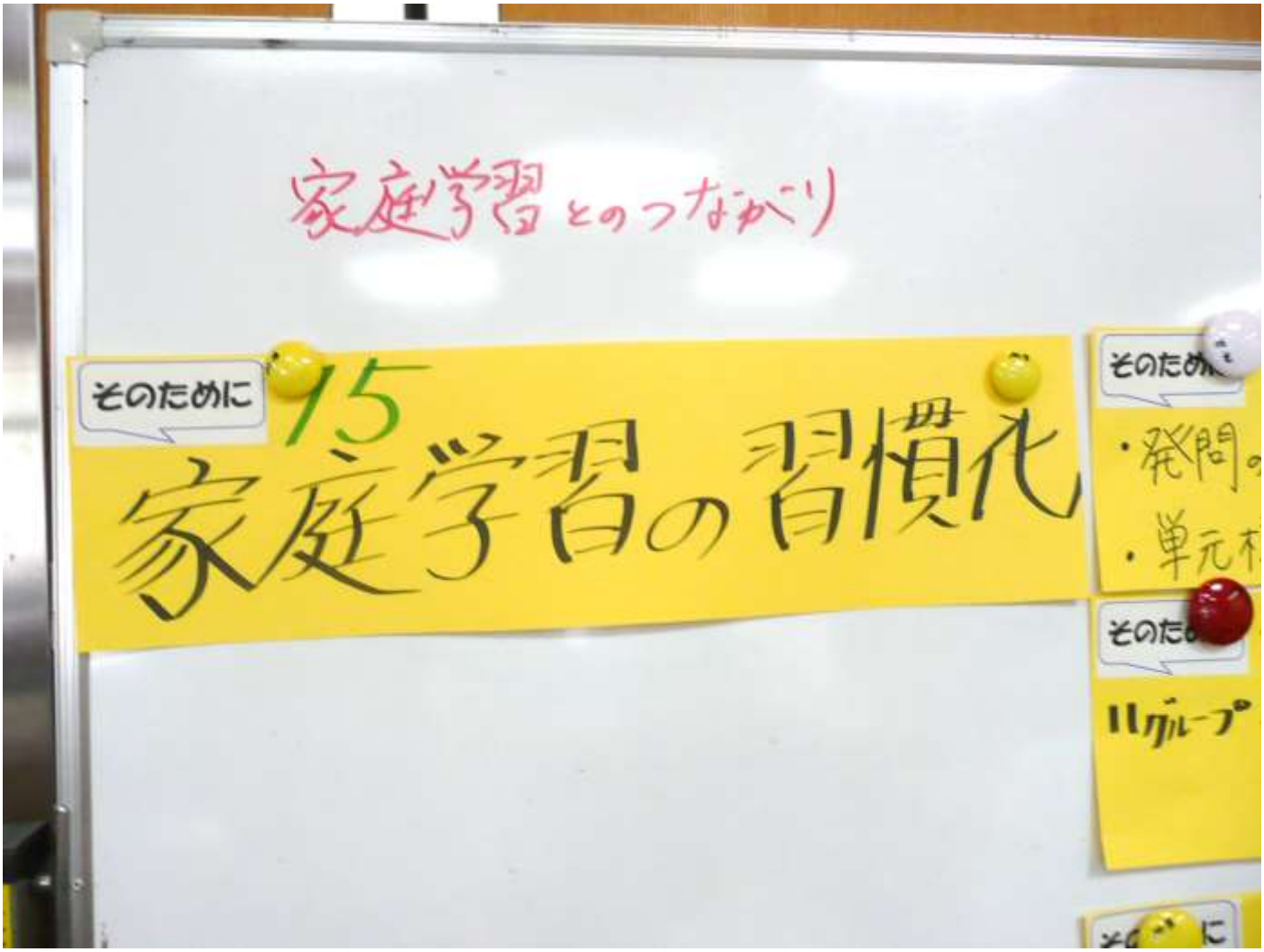
家庭学習の習慣化

期待する子どもの姿

○家で自学でやってきます

○次は何をするのだろう

○


家庭学習とのつながり
そのために15
家庭学習の習慣化
・発問の
・単元
そのた
11グループ

単元・課題の魅力

14グループ

そのため

・発問の工夫…単元のねらいにせまる発問
思考を促す発問

・単元構成の工夫・明確化

そのた

○単元構成（学年系統性 ）

11グループ ○考える価値のある問題

○友達と関わり合いのある学習場面設定

そ に 9グループ

○多様な考え方を引き出す。

○子どもの発想やつぶやきをほめる。

○ハードルを上げた、教員も楽しい課題、いい問題に出会わせる。

そのために 6グループ

いい授業 → いい振り返り

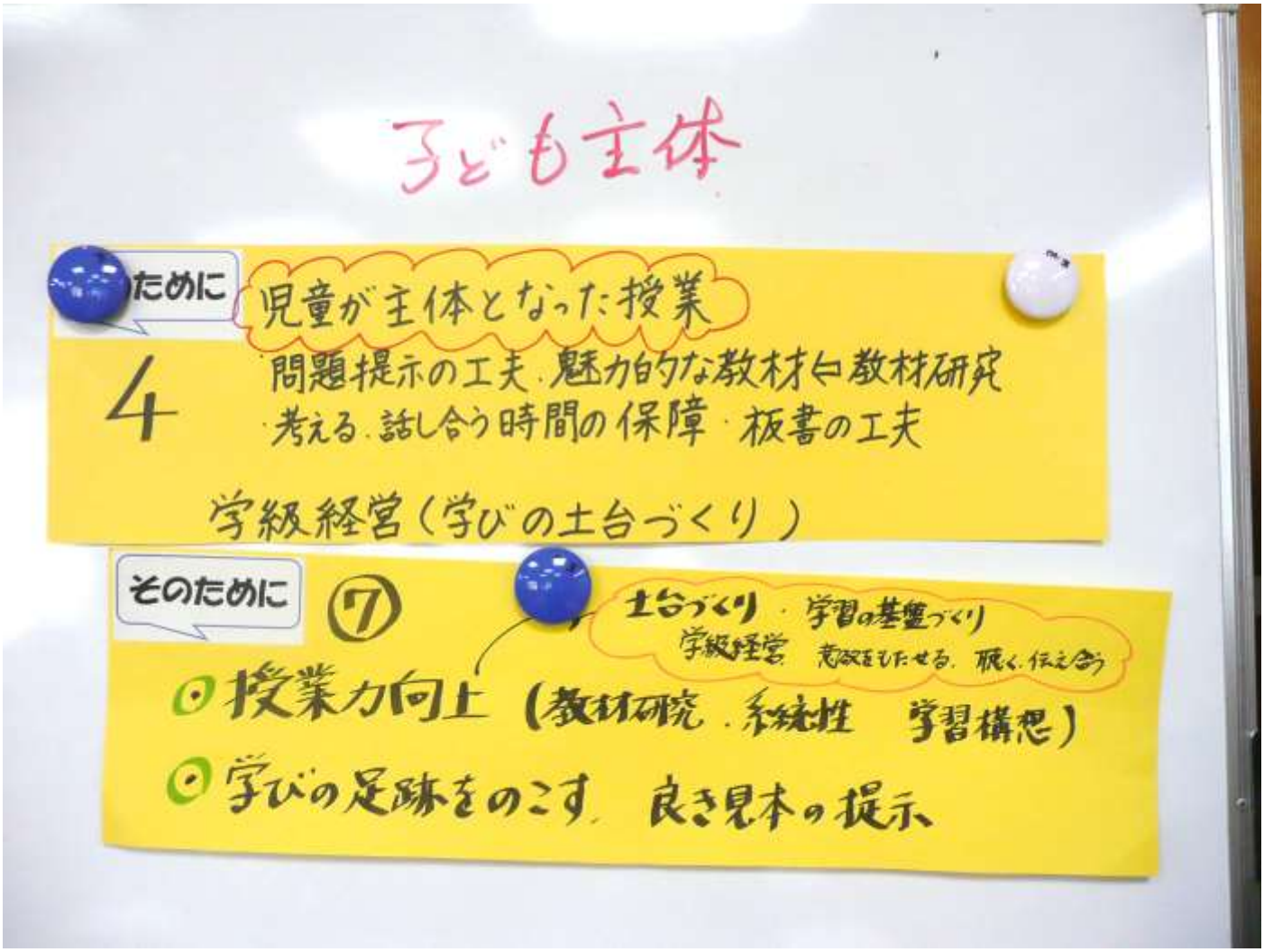
・「できた。」という満足感達成感をしっかり感じられる学習課題の設定

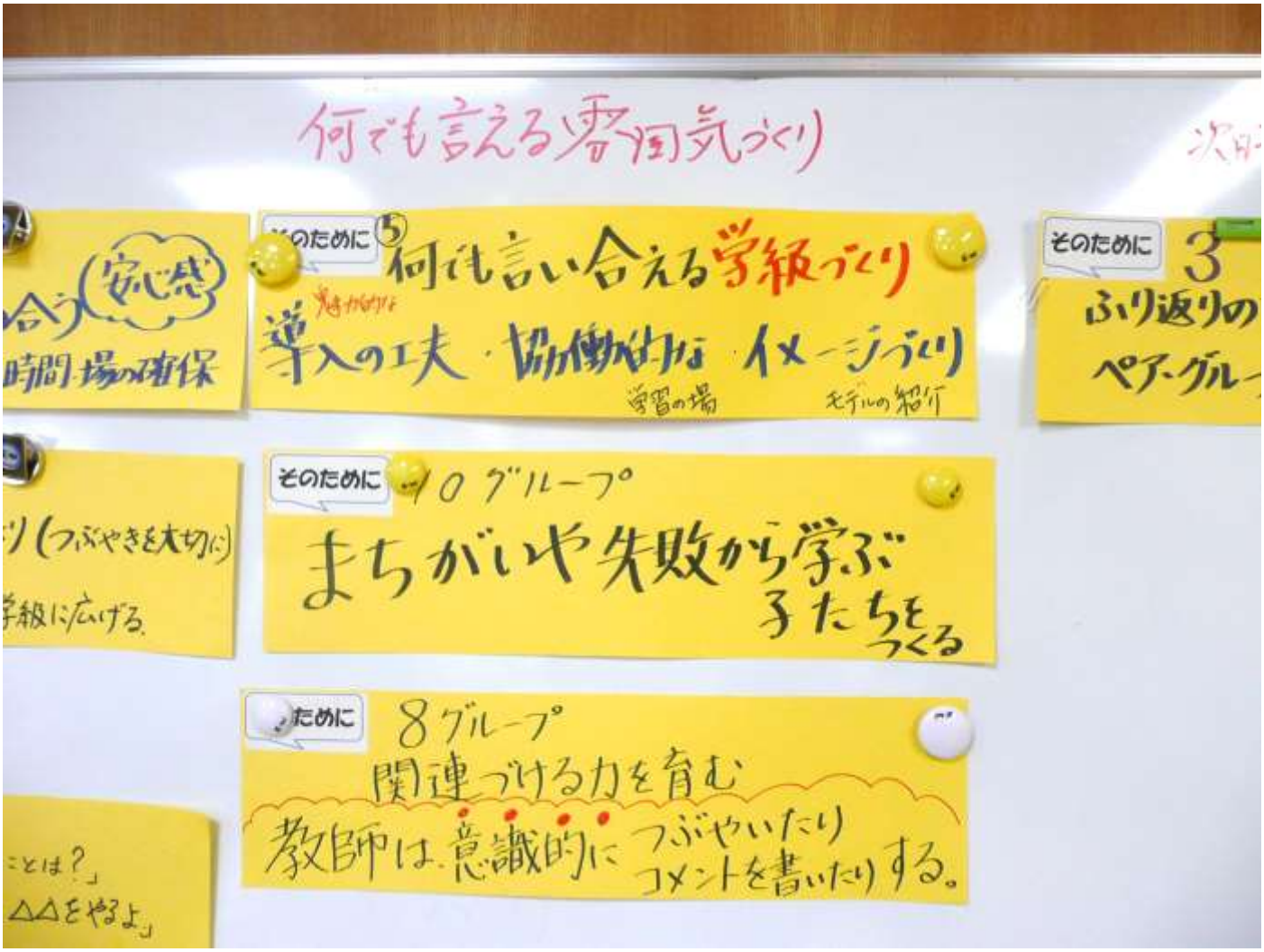
・本当に学んだことが自分のものになったか 自分で確かめたい!!と思えるような課がけ

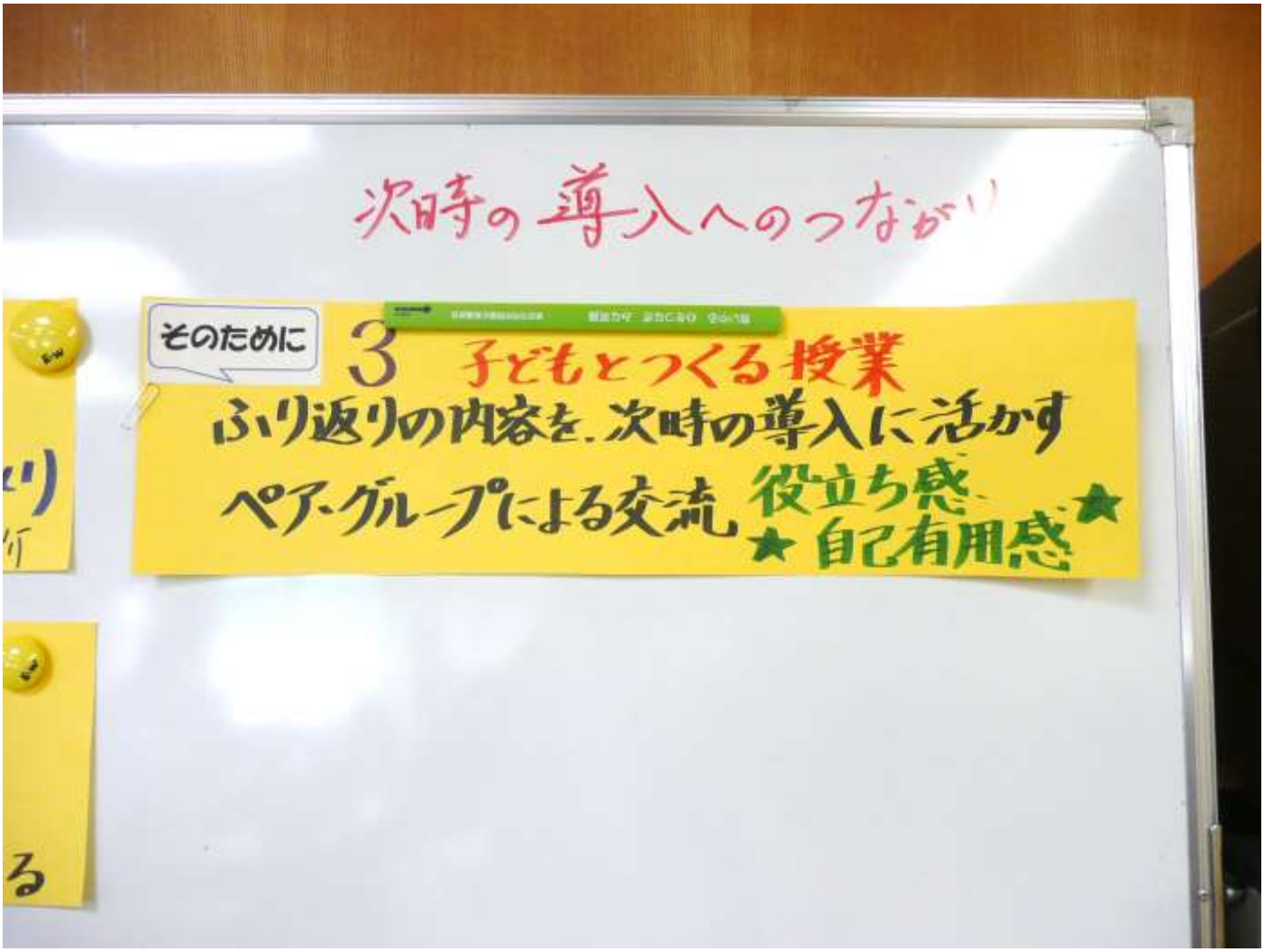
そのために 12

・本時のめあて（学習課題）を具体的にする

・課題設定の工夫


子ども主体
ために
児童が主体となった授業
4
問題提示の工夫・魅力的な教材⇔教材研究
・考える・話し合う時間の保障・板書の工夫
学級経営（学びの土台づくり）
そのために
⑦
土台づくり・学習の基盤づくり
学級経営 意欲をもたせる・聞く・伝え合う
授業力向上（教材研究・系統性 学習構想）
学びの足跡をのこす 良き見本の提示


何でも言える雰囲気づくり
安心感
時間・場の確保
そのために⑤
何でも言い合える学級づくり
導入の工夫・協働的なイメージづくり
学習の場
モデルの提行
そのために3
ふり返りの
ペア・グル
(つぶやきを大切に)
学級に広げる
そのために 10グループ
まちがいや失敗から学ぶ
子たちをつくる
ために 8グループ
関連づける力を育む
教師は意識的につぶやいたり
コメントを書いたりする。
ことは?」
△△をやるよ」


次時の導入へのつながり
そのために
3 子どもとつくる授業
ふり返りの内容を、次時の導入に活かす
ペア・グループによる交流
★役立ち感、
★自己有用感